

～ふる里の水と土に感謝して～

第13回 大師の里・彦左衛門の あじさいまつり 開催

水土里ネット立梅用水、多気町勢和地域資源保全・活用協議会が協賛



あじさいの小径クイズラリー



フラワーポットプレゼント



回答用紙配布

あじさいが咲き誇る多気郡多気町丹生の大師の里周辺で6月14日(日)午前9時から「第13回大師の里・彦左衛門のあじさいまつり」が開かれ、梅雨の晴れ間となり、会場一帯は15,000人ばかりの人手でにぎわった。

今回は、自立・維持可能な地域づくりを目指す「美(うま)し国おこし・三重」の取り組みに位置付けており、過去最多となる62団体が参画した。

オープニングセレモニーに続いて、あじさい姫の紹介や、よさこいソーランフェスティバル、恒例の田んぼの綱引きなどが広い会場のあちらこちらで行われた。とりわけ手堀りのノミ跡が残るトンネルに行く「立梅用水ボート下り」は、1時間待ちの行列が出来るほどの盛況であった。

水土里ネットみえも会場入口付近にブースを設け、毎年恒例となった「あじさいの小径クイズラリー」を実施し、お年寄りから子どもまで800人がクイズラリーに参加した。参加者たちは、立梅用水路沿いにある「アジサイの小径」の散策を楽しみながら、水土里ネットに関するクイズにチャレンジし、水土里ネットの地域での役割について理解を深めた。ゴールでは参加者にもれなくフラワーポットをプレゼントされ、笑顔で好みの花を選んでいった。

また、「田んぼの綱引き大会」では町内外の老若男女、子供たちがそれぞれにチームをつくり、泥だけになりながら

熱戦を繰り広げた。水土里ネットみえも「米を持って帰るぞ!!」との強い意気込みで1回戦は勝利を収めたが、続く2回戦では1回戦で全力を尽くしたのか余力がなく、敢えなく敗退した。しかし、選手たちは来年への期待を込め大いに氣勢を上げていた。

他にも立梅用水路でのアマゴ釣り、うなぎつかみ、田んぼのコンサートなどいろいろな催し物や、多くの団体が出店した特徴ある店々が軒を連ね、大にぎわいの1日であった。



田んぼの綱引き大会